

第 23 回 日本木材学会地域学術振興賞

「人工乾燥による製材品の品質管理技術の向上およびその普及による
木材関連産業への貢献」

岡山県農林水産総合センター森林研究所 河崎弥生

このたびは、栄えある地域学術振興賞を賜り、誠に光栄に存じております。

今回の受賞に関しまして、ご推薦を賜りました中国・四国支部長の橘燦郎先生、審査に当たられました先生方、杉山会長をはじめ学会幹部の先生方に、深く感謝を申し上げます。

また、私がこれまで研究を進める中で、学位を取得する際、古川郁夫先生には多くのご指導を賜り、作野友康先生、中尾哲也先生にも多くのご教示を賜りました。今日、私が拙って立つ基礎を作って頂きましたことに、改めて感謝申し上げます。

また、故寺澤真先生からは、折にふれ、大所高所からご指導を賜り、森林総合研究所の故筒本卓造先生、鷺見博史先生、久田卓興先生には、木材乾燥の実務を一からご教示賜り、その後も暖かいご指導を賜りました。その他、関係する多くの研究者の皆様、関連業界の皆様、同僚、友人に多くのご支援を頂きましたことをここに記し、深甚の謝意を表します。

私は、地方公立研究機関に身を置き、これまで三十数年間、主に木材乾燥に関する試験研究、技術指導等に日々を過ごして参りました。始めた頃は、住宅等に用いる国産針葉樹材の人工乾燥が緒に就いたばかりで、とてもやり甲斐のある恵まれた時期でした。この様な暮らしの中で、私なりに「木材乾燥の研究・普及の立ち位置」というものに思いを巡らせてまいりました。

木材乾燥は、一義的には、水分移動という物理現象を司る分野であります。木材組織、木材物理、木材化学とも関連が深く、また感性（意匠）とも係わりが出て参ります。

そして、木材乾燥に係わる私の立ち位置としては、「Technology」という領域に軸足を置きながらも、当然ながら「Science」の領域に入り込む必要があり、一方では厳然として存在する「Skill」（技能）という領域も認めながら、現場技術を構築する必要があるように感じて参りました。

また、木材乾燥の研究のあり方として、①誰のために、②どの様な基本姿勢で研究・技術開発を行い、さらに、③それをどの様に伝え、④伝えた後も、どの様に支えるべきなのかということ、常に考えてまいりました。

私は、研究所といういわば虚業の領域に身を置く者であります。まだ研究途中のものを、或いは結論は出ていても世に問うべきでない技術を、功を焦って実業の世界に出してしまっていないか。あるいは、実業である企業が実行しているからといって、不用意に追認してしまっていないかという様なことにも、思いを巡らすことが求められる場面もあると考えます。遅滞とした自分の研究の歩みの中で、日々、この様な自問自答を繰り返しながら、過ごして参りました。

木材乾燥の研究分野及び生産現場は、今なお成熟した状態に到達できているとは言えないと、私は考えております。

昨年お亡くなりになられました寺澤真先生から、30年ほど前に頂いた「君のような頭の悪い人間には、木材乾燥が何たるかは到底分からないだろうが、ひたすら夢中で向かい合っていれば、「あーなるほど！」と思える日が、もしかしたら来るかも知れない」というお言葉を胸に、今後も、主に木材乾燥という視点から、気力と体力が続く限り、私の愛する木材に触れあって参りたいと考えております。

このたびは、どうも有り難うございました。